

7月26日

おとめ聖マリヤの母アンナ

St. Anne, Mother of the Virgin Mary

(紀元前 1 世紀)



“The Virgin and Child
with St. Anne”

by

Leonardo da Vinci

1508

パリ ルーブル美術館

おとめ聖マリア母としてのアンナについて、福音書には何も書かれていない。その伝説的生涯は「ヤコブ原福音書」(170-80)に述べられている。

伝説によれば、アンナはユダヤのベツレヘムに生まれ、父はダビデ王の子孫でマタンと言い、母は祭司アロンの直系でマリアと言った。年頃になってナザレのヨアキムの妻になる。夫婦共に神のみ前に正しく歩んでいたが、年老いても子に恵まれなかった。しかし、アンナは希望を失わず、毎日祈り続けた。その熱心な祈りが聞き入れられ、アンナは、のちに神の母となるべき無原罪の聖母マリアを身ごもることになる。

マリアが4、5歳になると、アンナはこれを神にささげるため、エルサレムの神殿に連れて行き、神殿に奉仕する少女の仲間に加えてもらった。数年後、アンナはマリアを家に連れ戻し、自分の手で教育した。絵画において、アンナがマリアに読み方を教えている場面がよく見られる。

その後、アンナはマリアとヨセフの結婚に立会い、孫となる主イエスを抱き、聖家族の一員としてしばらく暮らしてから、聖家族にみとられつつ幸福な死をとげたとされる。

ニュッサのグレゴリオスとダマスコのヨハネらも

アンナについて書き、東方教会で崇められるようになる。6世紀にはアンナ記念教会がユスティニアヌス1世によってコンスタンティノポリスに建立された。聖アンナへの崇敬は、十字軍によって西ヨーロッパへもたらされ、数多くの教会が彼女を記念して名前を付けている。ルターら宗教改革者たちは、聖アンナ信仰を厳しく批判した。

ローマカトリック教会による無原罪の恩宿りの教義は、アンナの娘マリアは、彼女が受胎された瞬間から無原罪であったと説く。

1584年以降、聖アンナの日として公式の祝日とされるようになった。カナダおよびアンナを守護聖人とするブルターニュで崇敬者が多い。(M)

<特禱>

全能の神よ、あなたは聖徒たちの愛と献身を通して教会を築き上げられました。わたしたちはみ前に記念する主のしもべ、おとめ聖マリアの母アンナのために感謝いたします。どうかその模範に従うわたしたちを聖霊によって強め、今もこの世にあって聖徒たちとともにあなたの栄光を見て楽しむことができますように、み子イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**